

理念やビジョンを実現、共に成長



ジェイリース 代表取締役社長
中島 土氏

- 質問
- ①今の自分に最も影響を与えた人は？
 - ②ストレスの解消法は？
 - ③好きな書籍は？

- ①父と母
- ②サザンオールスターズの曲を聴く
- ③野中郁次郎ほか共著「失敗の本質」

して進める。「AI機能を搭載したスマートホーム住宅が将来的に主要な選択肢となると考えている。このメガトレンドに家賃保証サービスを組み合わせ、新たな社会課題解決モデルを築きたい」と考える。

企業ビジョンに「誰もが『自分の人生をまつとうできる社会』をつくる」を掲げ、「私は社員の自己実現を全力でサポートする応援団長」と話す。今春は20人以上を採用し、社員数はグループ全体で660人になる。「成果は、成長の果実。数字だけではなく、理念やビジョンを実現する『人財』と共に成長したい」と期待を込める。

全国で保証関連業を展開する。主力の賃料保証は住宅用、事業用ともに業績を伸ばし、2026年3月期第2四半期（25年7～9月）の売り上げ、利益は過去最高を更新した。事業拠点は今年3月に全国で44カ所になる予定。「入居者、不動産業者などステークホルダーの最も近くにいる営業姿勢が大きな武器になっている」と語る。

昨年は神戸市の家賃保証事業者「K-net」と大分市の総合広告代理店「エイエフビイ」をグループ企業に加えた。「業界で優位性がある一棟保証や、広告というお客さまとのコミュニケーションに生かせる強みを加え、シナジー（相乗効果）を發揮したい」と意欲を見せる。

AI（人工知能）を活用したスマートハウスの開発・普及も、他の企業と提携

傘下のサッカー・ジェイリースFCは昨年9月の九州リーグで初優勝。11月の全国地域CLでも初優勝を果たし、創部8年目で悲願のJFL昇格を達成した。昨年4月に分社化。「ミーティングを増やし、クラブの理念を選手一人一人が自覚できるようになつた」とチーム力の向上を感じている。

ジェイリースは低所得者など住宅確保が困難な要配慮者へのサポートを強化している。既に居住支援法人として全国18府県で活動し、福祉サービスとの連携などを支援。住宅セーフティネット法の改正を踏まえ、さらなる利便性向上に積極的に取り組む。



創部8年目で悲願のJFL昇格を果たしたジェイリースFC

